
173話 一生の好物

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

173話 一生の好物

【Nコード】

N9690V

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

海で遭難したオレは、もう3日何も口にできずにいたが、ある食料を前に頭を悩ませていた。

イートオアデッド??食うか死ぬか。

もう3日水しか口にしていないオレは、海でようやく捕まえたソレを前に頭を抱えていた。

食っちゃまえ！　なに、日本人は昔から海で採れたものは何でも食ってきたんだ。食えないはずがない。

見た目なんて気にすんな。ナマコだって刻んで食うじゃないか。

3日前、一人でボートに乗って海釣りを楽しんでいたオレは、突然のシケに襲われ、そのまま潮に流されてこの島に漂流した。

携帯は圏外で誰かに助けを呼ぶこともできず、島に着く直前にボートが沈んだため荷物はすべてパア。もちろんその時に携帯も一緒に水没。

ポケットに入れていた折りたたみ式の小さなナイフが唯一の道具だ。

「もし無人島に流されるとすれば何を持って行く？」なんて古臭い質問の機会さえもらえずにこの仕打ちはないだろう。

そもそも日帰りのつもりだったので釣り以外の用意なんてしてなかったし、都会育ちのオレに無人島サバイバルなんて最初から無理な話で、食える実も植物も分からないし、素手で魚を捕まえるなんてできるはずもない。

ラッキーだったのは森の奥に真水を見つけたことで、そのおかげで何とか生きているありさまだ。

それでも海なら何かあると思い、やっと捕まえたのが、今オレの

前にあるモノ……そう、紫の液体を出すアメフラシだ。

煮たり焼いたりすれば何とかなるのかもしれないが、持っているのはナイフだけ。つまり、生で食えという話だ。

せめてワタを取ろうと岩場に置いて押さえると、海で捕まえた時と同じ紫の汁がブワーとにじみ出てくるので海水で洗いながら何とかワタを取り除いたものの、形のグロさも相まってこっから先、口に持って行く勇氣がない。

それでも、もう空腹は限界だ。

食える。食えるはず。たぶん食える。きっと食えると思う。

でも、もし腹をこわしても医者はいないし……。

結局、口にできず4日目を迎えたオレは意識が朦朧として、空腹すら感じなくなっていた。

ふと見ると、昨日のアメフラシが一夜干しになって転がっている。これなら食えるかも……と、ぼんやりした頭のまま手を伸ばして、あれほど抵抗あったものをパクツと口にしていた。

ゴリゴリして強い磯臭さが鼻から抜けたが、海水のおかげで塩味がついていて食えないこともない。4日ぶりに口にできたものを、オレは夢中で食べた。

2日後。その間アメフラシで命をつないでいたオレは、偶然通りかかった漁船に発見されたのだ。

漁船が港に着く前に連絡してくれたおかげですぐに病院へ運ばれたが、多少衰弱しているだけで他に異常はなかった。

体力が回復してから改めて助けてくれた漁船のオヤジさんへお礼にうかがうと、海の男らしく、遭難しているやつを助けるのは当たり前だから気にするなと笑い飛ばして、せっかくだからメシを食っていけと誘われた。

大きなテーブルのところ狭しと並べられた豊富な海の幸にまじっ

て、見たことのない酢みそ和えや甘辛煮にした何かを刻んだものがあつた。

「アメフラシだ。この島の郷土料理だぞ。食ったことないだろう」
オヤジさんに言われてブツと吹き出しそうになったが、こいつがオレを生かしてくれたのかと思い、改めて手を合わせてから口に入れると柔らかくなんとも美味しくて涙が出てくる。

オヤジさんはオレの話に黙って耳を傾けながら、コップにとびきの日本酒をついでくれた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9690v/>

173話 一生の好物

2011年10月6日20時38分発行